

平成17年度「教員の総合的活動自己評価」に関する報告書

平成18年12月

国立大学法人高知大学評価本部

## 評価本部委員名簿

平成18年7月1日

本部長	本家 孝一	(副学長、医学部教授)
総務担当委員	柳澤 和道	(理学部教授)
教育担当委員	立川 明	(総合教育センター助教授)
研究担当委員	大島俊一郎	(黒潮圏海洋科学研究科助教授)
財務担当委員	櫻井 克年	(副学長、農学部教授)
医療担当委員	笹栗 志朗	(医学部教授)
地域(社会)連携担当委員	田村 安興	(人文学部教授)
学外委員	村木 厚子	(厚生労働省大臣官房政策評価審議官)

### 陪席者

大西 浩二 企画部長  
松山 郁 評価広報課課長代理

### 事務担当

井上 博文 評価広報課課長補佐  
立花 裕 評価広報課  
洞口 武文 評価広報課

## 目次

概要	-----	1
第1章 「教員の総合的活動自己評価」の目的	-----	2
第2章 平成17年度「教員の総合的活動自己評価」の変更点	-----	3
第3章 平成17年度自己評価報告書、添付資料と 次年度計画書の提出状況	-----	5
3-1節 自己評価報告書、添付資料の提出状況	-----	5
3-2節 次年度計画書の提出状況	-----	5
第4章 平成17年度の活動比率、自己評価点と 次年度の活動計画の全学集計	-----	6
4-1節 活動比率	-----	6
4-2節 自己評価点	-----	7
4-3節 次年度の活動計画	-----	9
第5章 教員の活動量の素点に基づく点数化	-----	9
5-1節 素点の算出法	-----	9
5-2節 平成17年度素点の改訂	-----	10
5-3節 「素点に基づく点数化」の全学集計	-----	13
第6章 「自己評価点」と「素点に基づく点数化」の関係	-----	16
第7章 「教員の総合的活動自己評価」の活用	-----	17
7-1節 各教員へのフィードバック	-----	17
7-2節 「教員の総合的活動自己評価」に関する アンケートから	-----	17
第8章 「素点に基づく点数化」からみた活動状況	-----	19
8-1節 教育活動	-----	19
8-1-1項 入試関連	-----	19
8-1-2項 講義	-----	20
8-1-3項 学位審査・論文指導	-----	21
8-1-4項 その他の教育活動	-----	22
8-2節 研究活動	-----	23
8-2-1項 著書・論文発表	-----	23
8-2-2項 学会活動・特許出願	-----	24
8-2-3項 外部資金獲得	-----	26
8-3節 社会貢献活動	-----	27
8-3-1項 国内社会貢献活動	-----	27
8-3-2項 国際交流	-----	28

8-4節	大学運営活動	29
8-5節	診療活動	30
第9章	評価システムの改善	31
第10章	おわりに	32

## 概要

**【1. 目的】**平成16年度に試行された「教員の総合的活動自己評価」は、平成17年度から本格実施となった。「教員の総合的活動自己評価」は、教員一人ひとりが高知大学の存在意義を見つめ直して、真摯に自分の置かれている立場を振り返って設定した目的を実現していくための方策である。各教員の個性的な取り組みを自ら客観的にレビューする機会を与え、PDCAサイクルによる自己改革を促すしくみである。この際、自己評価が独善的なものに陥らないように、客観的活動状況資料に基づく活動量の点数化（素点に基づく点数化）で担保している。活動データは全学で集積・分析され、結果は各教員にフィードバックされる。これにより、各教員は自分の活動特性や活動量の部局内や全学における位置づけを知ることができる。

**【2. 方法の変更点】**平成17年度「教員の総合的活動自己評価」では、入力方法をWeb入力に変更した。昨年度手入力した活動状況定量データ（総括表）は、コンピューターによる自動抽出に置き換わり、入力作業が省力化された。自己評価報告書の活動評点など内容の一部を改善した。活動量を点数化するための項目と素点の設定は、経年的変化（スパイラルアップしているか否か）をみるため、原則として、平成16年度に設定された項目と素点を据え置き、大勢に影響が出ないごく一部の項目と素点のみ改訂した。

**【3. 活動量の集計結果】**「素点に基づく点数化」の集計結果、平成17年度の高知大学全活動量は、平成16年度と比して約5%増加していた。活動分野別では研究活動の伸びが著しかった。一方、社会貢献活動の国際交流活動量が低下していた。部局別では、人文学部、教育学部、黒潮圏海洋科学研究科の活動量の増加が顕著であった。活動量の増減は、昨年度の初期値の問題や、活動量の波の問題があるので、次年度以降の動向に注目したい。

**【4. 自己評価点と素点に基づく点数化の関係】**「自己評価点」は、「素点に基づく点数化」と比して、教員間変動幅が小さかった（平均点±標準偏差は、自己評価点：361.0±63.3、素点に基づく点数化：197.2±158.7）が、両者は弱い正の相関（相関係数 0.194、回帰直線式：「素点に基づく点数化」= 0.486 × 「自己評価点」+ 21.1）を示した。

**【5. 自己評価の活用】**「教員の総合的活動自己評価」の活用状況についてアンケートした結果、53名から回答が寄せられ、そのうち31名（58.5%）が活用していると回答した。

**【6. 評価システムの改善】**本自己評価システムを継続的に改善し、より良いものへと進化させる必要がある。

## 第1章 「教員の総合的活動自己評価」の目的

平成16（2004）年4月、国立大学は法人化された。法人化の目的は「個性ある大学の創造と競争的環境の醸成」である。法人化後の国立大学は、教育研究の質の向上を目指して、自ら掲げた中期目標・中期計画に従って、諸活動を展開し、その成果を点検・評価し、評価結果に基づいて改善・改革を行うことで、自律的・持続的進化を促すことが期待されている。

一方、法人化後、運営費交付金は縮小化され、運営資金の獲得は大学間の競争にゆだねられ、教育研究特別経費、科学研究費補助金、COE、GPなどの競争的資金の獲得が大学の教育研究活動の運営に不可欠となった。これら競争的資金の分配は、さまざまな形の第三者評価に基づいて行なわれる。運営費交付金でさえ、中期計画終了後に実施される国立大学法人評価の結果が反映される。つまり、国立大学における諸活動は、全てオープンな競争的環境下に置かれたわけである。

このような国立大学法人に拘わる状況下で、高知大学のような中規模地方大学は、とすると大学変革の大波に飲み込まれてしまうのではないかと杞憂される。そうならないためには、高知大学の存在意義を明確にし、地域社会や広く国民から一目を置かれるような高知大学に変革していかなければならない。そのためには、高知大学の構成員一人ひとりが、真摯に自分の置かれている立場を振り返り、大学の存在意義を見つめ直して設定した各自の目的を実現していくことが要求される。高知大学の「進化する評価システム」（図1-1）は、教員や部局が自ら設定した目的を着実に実現していくための方策である。各教員と各部局等は、毎年、計画（Plan）を立て、実行（Do）し、自己評価（Check）を行い、その結果を改善（Act）する。最後の Act を次年度の Plan に繋げて、螺旋を描くように一周ごとに PDCA サイクルを向上させることにより継続的に進化していく。教員レベル、部局レベル、大学レベルの各階層における PDCA サイクルのスパイラルアップにより、おのずから活力と個性に溢れる高知大学が実現されていくと期待される。このような「進化する評価システム」の一貫として、「教員の総合的活動自己評価」が平成16年度から導入された。

「教員の総合的活動自己評価」は、たんなる成果・実績のリストアップではない。各教員が高知大学の存在意義を鑑みて自主的に設定した目的に照らして達成度を自己評価することにより、各教員の個性的な取り組みを自ら客観的にレビューする機会を与え、PDCA サイクルによる自己改革を促すしくみである。この際、自己評価がひとりよがりなものに陥らないように、客観的活動状況資料に基づく活動量の点数化で担保している。この活動項目には、成果のみならずプロセスに関するものも含まれている点が特長である。活動データは各教員の活動の足跡として大学に集積、分析され、分析結果は各教員にフィードバ

ックされる。これにより、各教員は自分の活動特性や活動量の部局内や全学における位置づけを知ることができる。

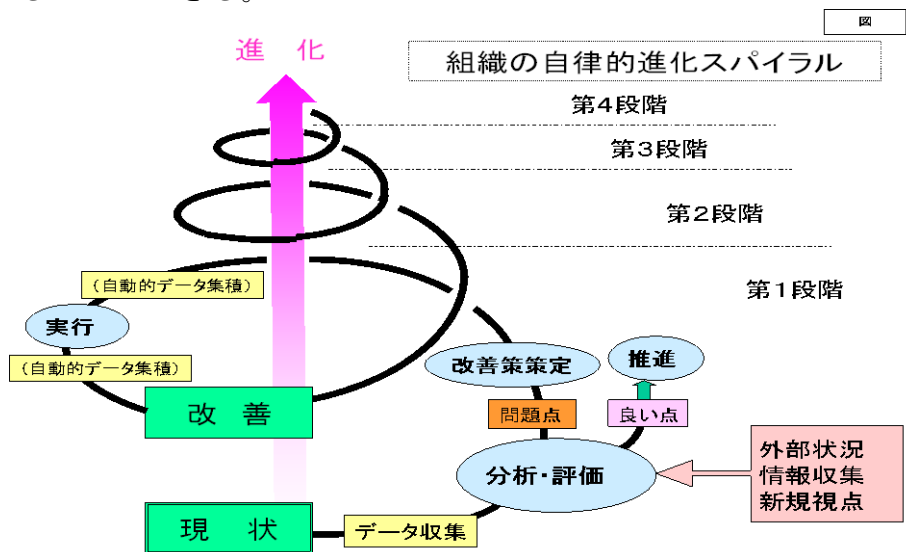


図 1-1 進化する評価システム

## 第2章 平成17年度「教員の総合的活動自己評価」の変更点

平成16年度「教員の総合的活動自己評価」は試行として実施された。この試行には大多数（91%）の教員が参加し、不完全ながらも高知大学全体の活動データがはじめて集積された。分析結果は、各教員にフィードバックされるとともに、報告書として公表された。試行に対するアンケートの意見を踏まえて、本格実施となった平成17年度「教員の総合的活動自己評価」では、評価項目や活動評点など内容の一部が改善された。入力方法をWeb入力に変更した。平成16年度に手入力した総括表は、コンピューターによる自動抽出に置き換わり、入力作業が省力化された。

評価項目と素点の設定には改善すべき点が残っているが、大幅な改変をすると、本評価システムで重要視している経年的変化（スパイラルアップしているか否か）を評価できなくなるので、当分の間、平成16年度に設定された評価項目と素点を据え置き、大勢に影響が出ないごく一部の評価項目の改訂にとどめることにした。

各教員は、一年前に作成した平成17年度計画に照らして、一年間の活動を自己評価報告書の評価項目に沿って自己評価した。活動の裏づけとなる客観的データを活動状況資料として添付した。自己評価に基づいて改善点を抽出し、次年度（平成18年度）計画書を作成した。

[平成17年度自己評価報告書]

平成17年度自己評価報告書は、平成16年度と同様、教員の活動を教育、研究、社会貢

献、大学運営、診療活動（医学部臨床系教員のみ）の4ないし5分野（評価軸）に分け、個々の教員は、各活動分野における活動比率を割り当てた。本学の大学改革の基本姿勢である4つのC（Catch The Chance ! Let's Change, Challenge and Create）に照らして、Chance（改革目標）、Challenge（計画）、Create（成果）、Change（次年度の改善目標）に振り分けた。個々の教員は、各分野における活動について、昨年度作成した改革目標（Chance）と計画（Challenge）に基づいて、一年間の成果（Create）を記述するとともに、AAからDまで5段階の評点を付けることにより自己評価した。CreateとChangeを入れ替えた点と評点にAAを加えたことが平成16年度からの変更点である。

具体的には、過去一年間の活動比率を活動分野毎に割り振り（トータル100%）、活動分野毎に5段階評価（AA=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点）した。AAは「目標を上回る成果であった」、Aは「目標に十分到達している」、Bは「目標におおむね到達しているが、改善の余地もある」、Cは「目標にある程度到達しているが、改善の必要がある」、Dは「目標への到達が不十分であり、大幅な改善の必要がある」を表している。ある教員の活動分野への活動比率（評点）が、教育活動30%（A）、研究活動40%（AA）、社会貢献活動20%（B）、大学運営活動10%（C）の場合、自己評価の合計点は $(30 \times 4) + (40 \times 5) + (20 \times 3) + (10 \times 2) = 400$ 点（最大500点）となる。

#### [活動状況資料（添付資料）]

活動状況資料は、各教員の活動内容を裏付ける客観的データである。各学部等の個性を尊重するために、データ項目として共通項目以外に5学部（人文学部、教育学部、理学部、医学部、農学部）・1研究科〔黒潮圏海洋科学研究科（以下、黒潮圏研究科と略す）〕のそれぞれに固有の項目を設定した。さらに、文系と理系で研究業績に関する素点が異なることを鑑み、各教員が、所属部局とは無関係に自分の意思で文系か理系かを選択できるようにした。

活動状況資料から自動的に平成16年度の総括表に相当するデータを抽出し、平成16年度と同様に『素点に基づく点数化』を行なった。上述したように、経年的変化をみるために、原則として評価項目と素点は据え置いた。

#### [平成18年度計画書]

各教員は、以上の自己評価に基づき、次年度の改善目標（Change）を立て、平成18年度計画書に「計画活動比率（%）」とともに記述した。この次年度改改善目標（Change）は、次年度自己評価書の改革目標（Chance'）に相当する。



### 第3章 平成17年度自己評価報告書、添付資料と次年度計画書の提出状況

#### 3-1節 自己評価報告書、添付資料の提出状況

全学の総教員数627名中554名（内25名が不備）が、自己評価報告書を提出した（提出率88%）（表3-1）。不備なものとしては、活動比率の入力ミスや評価を数字で入力しているものなどがあつた。添付資料は541名が提出した（提出率86%）。両方とも未提出の者は60名であつた。

表3-1 自己評価報告書の提出状況

		添付資料		
		提出	未提出	合計
自己評価	提出	508	21	529
	不備	20	5	25
	未提出	13	60	73
	合計	541	86	627

#### 3-2節 次年度計画書の提出状況

次年度（平成18年度）計画書提出対象者となる585名中439名が、次年度計画書を提出した（提出率75%）。（表3-2）。

表3-2 次年度計画書の提出状況

		目標		
		提出	未提出	合計
活動比率	提出	433	11	444
	未提出	6	135	141
	合計	439	146	585

## 第4章 平成17年度の活動比率と自己評価点、次年度の活動計画の全学集計

### 4-1節 活動比率

自己評価報告書に申告された活動比率を全学集計した。活動比率（括弧内は昨年度実績）は、教育活動 31(31)%、研究活動 28(30)%、社会貢献活動 14(13)%、大学運営活動 15(14)%、診療活動 12(12)%で、昨年度とほぼ同じであった（図 4-1）。各部局の活動比率を表 4-1 に、職階別の活動比率を表 4-2 に示す。

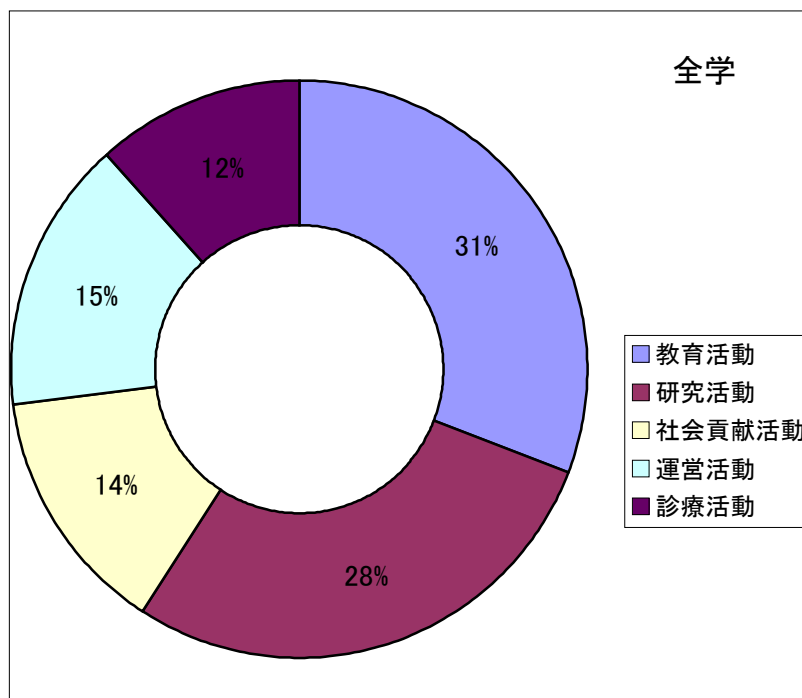


図 4-1 全学集計した活動比率 (%)

表 4-1 平成 17 年度活動比率

学部等	人数	教育活動	研究活動	社会貢献活動	運営活動	診療活動
人文学部	68	39.76	30.18	13.60	16.46	0.00
教育学部	75	35.03	25.85	18.77	20.35	0.00
理学部	67	35.72	33.78	12.55	17.96	0.00
医学部	222	24.88	25.95	11.77	10.50	26.90
農学部	59	33.61	32.12	15.71	18.56	0.00
黒潮圏研究科	15	27.67	37.67	14.67	20.00	0.00
全共施設	23	27.17	22.83	18.48	25.65	5.87
全学	529	30.76	28.36	13.91	15.43	11.54

## 4-2節 自己評価点

自己評価報告書に申告された職階別の自己評価点を表 4-2 に示す。昨年度の自己評価点（400 点満点）は、全教員 323.2、教授 330.7、助教授 325.8、講師 309.4、助手 312.6 点であった。昨年度と評点が変わったので単純には比較できないが、平成 16 年度、平成 17 年度ともに、教授、助教授、助手、講師の順に点数が高く、講師と助手のところで職階の順序と逆転していた。

表 4-2 自己評価点の職階別集計

職階別	活動区分	自己評価			
		提出者数	活動比率	自己評価点*1	活動分野の評点*2
全教員	教育活動	529	30.76	113.66	3.7
	研究活動		28.36	96.96	3.42
	社会貢献		13.91	51.12	3.67
	大学運営		15.43	57.13	3.7
	診療活動		11.54	43.09	3.73
	計		100.00	<b>361.95</b>	<b>3.62</b>
教授	教育活動	201	33.39	126.34	3.78
	研究活動		26.65	93.94	3.53
	社会貢献		15.86	61.20	3.86
	大学運営		21.27	83.02	3.9
	診療活動		2.84	10.20	3.6
	計		100.00	<b>374.70</b>	<b>3.75</b>
助教授	教育活動	161	34.10	126.11	3.7
	研究活動		32.66	114.26	3.5
	社会貢献		14.14	51.85	3.67
	大学運営		14.65	53.59	3.66
	診療活動		4.45	17.07	3.84
	計		100.00	<b>362.89</b>	<b>3.63</b>
講師	教育活動	40	26.68	95.83	3.59
	研究活動		24.68	78.35	3.18
	社会貢献		12.18	40.48	3.32
	大学運営		10.23	32.30	3.16
	診療活動		26.25	94.75	3.61
	計		100.00	<b>341.70</b>	<b>3.42</b>
助手	教育活動	125	22.82	79.96	3.5
	研究活動		26.95	86.31	3.2
	社会貢献		11.11	37.54	3.38
	大学運営		8.96	28.90	3.23
	診療活動		30.16	113.64	3.77
	計		100.00	<b>346.36</b>	<b>3.46</b>

\*1 平成 17 年度の自己評価点は 500 点満点

\*2 活動分野の評点は、各活動分野の自己評価点を活動比率で除して計算した。  
AA=5 点、A=4 点、B=3 点、C=2 点、D=1 点

部局別の自己評価点を表 4-3 に示す。昨年度の部局別の自己評価点（400 点満点）は、人文学部 340、教育学部 331、理学部 320、医学部 316、農学部 325、黒潮圏研究科 315、全学共施設 340 点であった。平成 16 年度、平成 17 年度ともに、人文学部、全学共施設、教育学部、農学部、理学部、医学部、黒潮圏研究科の順に点数が高かった。

表 4-3 部局別の自己評価点

部局	活動区分	自己評価			
		提出者数	活動比率	自己評価点 * 1	活動分野の評点 * 2
人文学部	教育活動	68	39.76	158.69	3.99
	研究活動		30.18	112.18	3.72
	社会貢献		13.60	51.19	3.76
	大学運営		16.46	64.60	3.93
	計		100.00	<b>386.66</b>	<b>3.87</b>
教育学部	教育活動	75	35.03	135.11	3.86
	研究活動		25.85	92.35	3.57
	社会貢献		18.77	74.03	3.94
	大学運営		20.35	76.32	3.75
	計		100.00	<b>377.80</b>	<b>3.78</b>
理学部	教育活動	67	35.72	131.19	3.67
	研究活動		33.78	113.52	3.36
	社会貢献		12.55	43.37	3.46
	大学運営		17.96	67.31	3.75
	計		100.00	<b>355.40</b>	<b>3.55</b>
医学部	教育活動	222	24.88	88.45	3.56
	研究活動		25.95	84.62	3.26
	社会貢献		11.77	41.23	3.50
	大学運営		10.50	36.80	3.51
	診療活動		26.90	100.24	3.73
	計		100.00	<b>351.33</b>	<b>3.51</b>
農学部	教育活動	59	33.61	119.02	3.54
	研究活動		32.12	111.61	3.47
	社会貢献		15.71	58.39	3.72
	大学運営		18.56	70.59	3.80
	計		100.00	<b>359.61</b>	<b>3.60</b>
黒潮圏研究科	教育活動	15	27.67	88.33	3.19
	研究活動		37.67	125.00	3.32
	社会貢献		14.67	53.67	3.66
	大学運営		20.00	69.00	3.45
	計		100.00	<b>336.00</b>	<b>3.36</b>
全共施設	教育活動	23	27.17	105.65	3.89
	研究活動		22.83	81.96	3.59
	社会貢献		18.48	73.91	4.00
	大学運営		25.65	96.74	3.77
	診療活動		5.87	23.48	4.00
	計		100.00	<b>381.74</b>	<b>3.82</b>

\*1, \*2 表 4-2 と同じ

### 4-3節 次年度の活動計画

全学集計した次年度活動比率計画を、平成16年度および平成17年度活動比率実績と比較して表4-4に示す。次年度計画では、研究活動の比率が上がって、診療活動の比率が下がっているが、これは診療活動の比率が高く異動の多い病院助手の次年度計画提出率が低いためと思われる。

表4-4 活動比率の推移

活動区分	16年度活動比率	17年度活動比率	次年度活動比率(計画)
教育活動	30.70	30.76	30.14
研究活動	29.80	28.36	31.40
社会貢献	13.10	13.91	13.84
大学運営	14.00	15.43	14.63
診療活動	12.40	11.54	10.00
計	100.00	100.00	100.00

## 第5章 教員の活動量の素点に基づく点数化

活動状況資料は、教員の活動を客観的に表し、自己評価を根拠づけるものである。活動状況資料から、定量的なデータ（平成16年度の総括表に該当するデータ）を抽出し、平成16年度と同様に『素点に基づく点数化』を行なった。素点に基づき、各教員や各部局の活動量を点数化し、活動量を客観的に示す指標とした。

### 5-1節 素点の算出法

素点の算出法は、『平成16年度に試行した「教員の総合的活動自己評価」に関する報告書』の8-9ページに記載されている。簡単に述べると、全教員の全活動量を10万点とし、平成16年度の活動分野の活動比率（教育活動31%、研究活動30%、社会貢献活動13%、大学運営活動14%、診療活動12%）に基づき、大項目の教育活動に3.1万点、研究活動に3.0万点、社会貢献活動に1.3万点、大学運営活動に1.4万点、診療活動に1.2万点を配分した（重みづけを行った）。それぞれの大項目内において、中項目の設定と重みづけを行い、さらに各中項目の下に小項目を設け、全学総件数で除することにより素点を定めた（表5-1）。言い換えると、素点と全学総件数を乗じる（素点×件数）と大学全体としての小項目の点

数が計算され、小項目の和が中項目の点数、さらに中項目の合計が大項目の点数として計算される。活動分野内あるいは活動分野間をまたぐ素点の妥当性は、講義1時間あたりに換算することにより検証した。論文業績に関しては学問分野の違いを考慮した。本学の「中期目標・中期計画」（研究に関する目標）において「論文数（理系教員は一人当たり年間1編以上、文系にあっては年間0.5編以上）」と明記されていることから、文系論文の素点は理系の2倍とした。

## 5-2節 平成17年度素点の改訂

活動量を評価するための項目と素点の設定には、「質の評価」の問題など改善すべき点が残っているが、本評価システムで重要視している経年的変化（スパイラルアップしているか否か）の評価を担保するため、原則として、平成16年度に設定された評価項目と素点を据え置き、大勢に影響が出ないごく一部の評価項目と素点を改訂した（表5-2）。各教員の活動状況資料から定量的活動データを抽出し、改訂された素点に基づいて、平成16年度と同様に「素点に基づく点数化」を行なった。

表 5-1 平成 16 年度素点一覧表

教育			研究				社会貢献				大学運営				診療活動					
	素点	時間換算 (授業相当)	素点		時間換算 (授業相当)		素点	時間換算 (授業相当)	素点	時間換算 (授業相当)	素点	時間換算 (授業相当)	素点	時間換算 (授業相当)	素点	時間換算 (授業相当)				
			文系 (x2)	理系	文系	理系											文系	理系		
問題出題の有無	件数	5.00	33.3	論文 著書	欧文	30	15	200.0	100.0	学会における教育活動(時間/年)	時間	0.20	1.3	学部長	70	466.7	診療日数	日数/年		
採点の有無	件数	3.50	23.3		邦文	12	6	80.0	40.0	講演、研修	件数	0.70	4.7	附属施設長	35	233.3	診療時間	時間/年	0.030	0.200
面接の有無	件数	1.40	9.3	総説	欧文	30	15	200.0	100.0	審議会活動	回数	0.70	4.7	委員長一全学	20	133.3	診療患者数	人/年	0.010	0.067
試験分析、企画件数	件数	3.00	20.0		邦文	12	6	80.0	40.0	産学官連携	件数	4.70	31.3	委員長一学部	15	100.0	当直日数	日数/年	0.250	1.667
受験生獲得対応の有無	件数	2.00	13.3	原著論文	欧文	30	15	200.0	100.0	ボランティア活動	件数	0.75	5.0	委員一全学	8	53.3	時間外診療	時間/年	0.050	0.333
その他(記述)	件数	2.00	13.3		邦文	12	6	80.0	40.0	メディアによる啓発	件数	0.75	5.0	委員一学部	4	26.7	特殊検査件数/年	内視鏡	0.030	0.200
講義時間総数				症例報告	欧文	12	6	80.0	40.0	鑑定	件数	5.00	33.3	その他(記述)	3	20.0		放射線	0.030	0.200
(時間/年)	共通教育	0.15	1.0		邦文	3	1.5	20.0	10.0	保健医療従事者への教育	件数	0.75	5.0					その他	0.015	0.100
	学部、大学院	0.15	1.0	その他の論文		3	1.5	20.0	10.0	審査員、審判活動	回数	0.75	5.0				患者数/年			
	他学部、他大学	0.15	1.0	I.F.	総数					同窓会活動	回数	0.40	2.7				指導症例数	0.010	0.067	
学位審査件数(修士)	主査	2.00	13.3	C.I.	総数					その他(記述)	件数	0.12	0.8				臨床活動普及活動	0.065	0.433	
	副査	1.00	6.7	活動 学会活動 国内	参加	0.40	文 理一 共通	2.7	共通								講演回数	0.200	1.333	
(博士)	主査	3.00	20.0		発表	0.60		4.0		国際セミナー、シンポ	回数	9.00	60.0				臨床成果学術活動	0.080	0.533	
	副査	1.50	10.0		司会	0.80		5.3		大学/学術組織との交流等	回数	6.00	40.0				特殊患者診療数	0.040	0.267	
学生指導件数	卒論(2年)	5.00	33.3	国際	参加	0.90		6.0		在外研究	回数	9.00	60.0				難治症例	0.040	0.267	
	修論(2年)	7.00	46.7		発表	1.50		10.0		姉妹校との交流	回数	6.20	41.3				紹介患者数	0.030	0.200	
	博論(3-4年)	8.00	53.3		司会	3.50		23.3		留学生/研究者の受け入れ(人/年)	件数	6.00	40.0				医事紛争対応	1.400	9.333	
FD関連(企画の有無)	件数	1.50	10.0	受賞	件数	25.00		166.7		UN, JICA, NGO	件数	6.00	40.0				地域病院への協力	0.010	0.067	
(参加の有無)	件数	0.10	0.7	特許出願(公開)	件数	5.00		33.3		技術指導	件数	9.00	60.0				第三者評価への協力	0.550	3.667	
就職相談(件/年)	件数	1.00	6.7	取得	件数	30.00		200.0		その他(記述)	件数	1.50	10.0							
授業評価普及率%	件数	1.00	6.7	研究セミナー	件数	1.20		8.0												
留学支援(件/年)	件数	1.00	6.7	その他(記述)	件数	1.00		6.7												
クラブ顧問の有無	件数	1.00	6.7	外部資金(単位:万円)																
その他(記述)	件数	0.20	1.3	科研	金額(万円)	0.05		0.3												
					採択数	0.40		2.7												
					応募数	0.25		1.7												
				共同研究	金額(万円)	0.03		0.2												
				受託研究、奨学寄附金	金額(万円)	0.03		0.2												
				学長、学部長裁量経費	金額(万円)	0.03		0.2												
				その他	金額(万円)	0.03		0.2												

表 5-2 平成 17 年度改訂素点一覧表

教育				研究				社会貢献				大学運営				診療活動				
		素点	時間換算 (授業相当)	素点		時間換算 (授業相当)		素点		時間換算 (授業相当)		素点		時間換算 (授業相当)		素点		時間換算 (授業相当)		
				文系 (x2)	理系	文系	理系													
入試統括の有無	件数	5.00	33.3	論文 著書	欧文	30	15	200.0	100.0	学会における教育活動(時間/年)	時間	0.20	1.3	学部長	70	466.7	診療日数	日数/年		
問題出題の有無	件数	5.00	33.3		邦文	12	6	80.0	40.0	講演、研修	件数	0.70	4.7	附属施設長	35	233.3	診療時間	時間/年	0.030	0.200
採点の有無	件数	3.50	23.3	総説	邦文	30	15	200.0	100.0	審議会活動	回数	0.70	4.7	委員長-全学	20	133.3	診療患者数	人/年	0.010	0.067
面接の有無	件数	1.40	9.3		邦文	12	6	80.0	40.0	産学官連携	件数	4.70	31.3	委員長-学部	15	100.0	当直日数	日数/年	0.250	1.667
試験分析、企画件数	件数	3.00	20.0	原著論文	邦文	30	15	200.0	100.0	ボランティア活動	件数	0.75	5.0	委員-全学	8	53.3	時間外診療	時間/年	0.050	0.333
受験生獲得対応の有無	件数	2.00	13.3		邦文	12	6	80.0	40.0	メディアによる啓発	件数	0.75	5.0	委員-学部	4	26.7	認定医、専門医数	件	0.500	3.333
その他(記述)	件数	2.00	13.3	症例報告	邦文	12	6	80.0	40.0	鑑定	件数	5.00	33.3	その他(記述)	3	20.0	特殊検査件数/年	内視鏡	0.030	0.200
<b>講義時間総数</b>					邦文	3	1.5	20.0	10.0	保健医療従事者への教育	件数	0.75	5.0				放射線		0.030	0.200
<b>(時間/年)</b>		<b>共通教育</b>	<b>0.15</b>	<b>その他の論文</b>		3	1.5	20.0	10.0	審査員、審判活動	回数	0.75	5.0				その他		0.015	0.100
		<b>学部、大学院</b>	<b>0.15</b>	I.F.	総数					同窓会活動	回数	0.40	2.7				患者数/年			
		<b>他学部、他大学</b>	<b>0.15</b>	C.I.	総数					起業活動	回数	50.00	333.3				指導症例数		0.010	0.067
学位審査件数(修士)	主査	2.00	13.3	活動 学会活動 国内	参加	0.40	文 理一 共通	2.7	共通	その他(記述)	件数	0.12	0.8				臨床活動普及活動		0.065	0.433
	副査	1.00	6.7		発表	0.60		4.0									講演回数		0.200	1.333
(博士)	主査	3.00	20.0		司会	0.80		5.3		国際セミナー、シンポ	回数	9.00	60.0				臨床成果学術活動		0.080	0.533
	副査	1.50	10.0	国際	参加	0.90		6.0		大学/学術組織との交流等	回数	6.00	40.0				特殊患者診療数		0.040	0.267
学生指導件数	卒論(2年)	5.00	33.3		発表	1.50		10.0		在外研究	回数	9.00	60.0				難治症例		0.040	0.267
	修論(2年)	7.00	46.7		司会	3.50		23.3		姉妹校との交流	回数	6.20	41.3				特殊検査	件/年	0.030	0.200
	博論(3-4年)	8.00	53.3	受賞	件数	25.00		166.7		留学生/研究者の受け入れ(人/年)	件数	6.00	40.0				手術	件/年	0.500	3.333
FD関連(企画の有無)	件数	1.50	10.0	特許出願(公開)	件数	5.00		33.3		UN, JICA, NGO	件数	6.00	40.0				臨床治験	件/年	0.250	1.667
(参加の有無)	件数	0.10	0.7	取得	件数	30.00		200.0		技術指導	件数	9.00	60.0				臨床成果の執筆活動	編/年	0.065	0.433
卒業生への就職企業等への訪問(件/年)	件数	1.00	6.7	研究セミナー	件数	1.20		8.0		国際委員活動	件数	9.00	60.0				臨床指導	時間/年	0.010	0.067
企業等からの来訪者に対する対応(件/年)	件数	1.00	6.7	研究学会誌への投稿論文の査読	件数	1.20		8.0		その他(記述)	件数	1.50	10.0				紹介患者	人/年	0.030	0.200
就職相談(件/年)	件数	1.00	6.7	学術誌編集	件数	10.00		66.7									医事紛争対応		1.400	9.333
授業評価普及率	%			その他(記述)	件数	1.00		6.7									地域病院への協力		0.010	0.067
留学支援(件/年)	件数	1.00	6.7	外部資金(単位:万円)													第三者評価への協力	件数	0.550	3.667
クラブ顧問の有無	件数	1.00	6.7	科研	金額(万円)	0.05		0.3												
その他(記述)	件数	0.20	1.3		採択数	0.40		2.7												
					応募数	0.25		1.7												
				共同研究	金額(万円)	0.03		0.2												
				受託研究、奨学金等	金額(万円)	0.03		0.2												
				学長、学部長裁量経費	金額(万円)	0.03		0.2												
				その他	金額(万円)	0.03		0.2												



### 5-3節 「素点に基づく点数化」の全学集計

「素点に基づく点数化」の活動分野別集計を表 5-3 に、職階別集計を表 5-4 に、部局別集計を表 5-5 に示す。

表 5-3 に示すように、昨年度と比して、全学の全活動量は約 5 % 増加した (合計点で 1.05 倍、教員一人あたり平均で 1.06 倍)。活動分野別では研究活動の伸びが著しかった (合計点で 1.24 倍、教員一人あたり平均で 1.25 倍)。それに対して、社会貢献活動は低下した (合計点で 0.82 倍、教員一人あたり平均で 0.83 倍)。活動分野別活動状況については、第 8 章で詳述する。

職階別集計では、教授と助教授の活動量が増加し、講師と助手の活動量は低下した (表 5-4)。とくに、助教授の研究活動量の増加が顕著であった (合計点で 1.46 倍、教員一人あたり平均で 1.40 倍)。講師の大部分は病院に勤務しており、診療活動が大きく伸びていることから (合計点で 1.13 倍、教員一人あたり平均 1.21 倍)、昨今の大学病院を取り巻く状況の中で、診療活動に重点的に活動したため、他の活動の時間がとられたものと思われる。助手は合計点で 0.91 倍と低下しているが、教員一人あたり平均では 0.98 倍で、ほぼ横ばいであった。

部局別集計では、人文学部、教育学部、黒潮圏研究科の活動量の増加が顕著であった (表 5-5)。総点数に占める各部局の割合 (括弧内は昨年度実績) は、人文学部 10.1 (8.6) %、教育学部 13.2 (10.5) %、理学部 11.8 (11.7) %、医学部 41.1 (43.5) %、農学部 15.3 (17.3) %、黒潮圏研究科 4.4 (3.5) %、全学共施設 4.4 (5.1) %であった。

教員一人あたりの活動量は、黒潮圏研究科 (286.8)、農学部 (259.7)、医学部 (190.6)、教育学部 (187.2)、全共施設 (177.8)、理学部 (175.3)、人文学部 (161.1) の順に高かった (表 5-5 の平均点の欄)。昨年度は、農学部 (261.5)、黒潮圏研究科 (216.1)、全共施設 (204.6)、医学部 (183.4)、理学部 (165.5)、人文学部 (158.5)、教育学部 (141.6) の順であった。昨年度と比較して、教育学部 (1.32 倍) と黒潮圏研究科 (1.33 倍) の伸びが目立った。

活動量の増減は、昨年度の初期値の問題や、活動量の波の問題があるので、次年度以降の動向に注目したい。

表 5-3 「素点に基づく点数化」の活動分野別集計結果

活動区分	素点に基づく点数化						平成17／平成16	
	平成17 提出者 数	平成17 合計点	平成17 平均点	構成 比率	平成16 合計点	平成16 平均点	合計点	平均点
教育活動	541	29,954.39	55.37	28.44	30,705.86	56.55	0.98	0.98
研究活動		37,069.74	68.52	35.19	29,798.38	54.88	1.24	1.25
社会貢献		10,781.48	19.93	10.24	13,108.24	24.14	0.82	0.83
大学運営		15,307.00	28.29	14.53	14,074.00	25.92	1.09	1.09
診療活動		12,223.17	22.59	11.60	12,405.64	22.85	0.99	0.99
全活動		105,335.78	194.71	100.00	100,092.11	184.33	1.05	1.06

表 5-4 「素点に基づく点数化」の職階別集計結果

職別	活動区分	素点に基づく点数化						平成17／平成16	
		平成17 提出者	平成17 合計点	平成17 平均点	構成 比率	平成16 合計点	平成16 平均点	合計点	平均点
教授	教育活動	207	18,098.84	87.43	33.28	18,029.58	87.95	1.00	0.99
	研究活動		18,558.61	89.66	34.12	14,691.68	71.67	1.26	1.25
	社会貢献		5,977.65	28.88	10.99	6,087.43	29.70	0.98	0.97
	大学運営		10,512.00	50.78	19.33	9,425.00	45.98	1.12	1.10
	診療活動		1,239.55	5.99	2.28	941.95	4.60	1.32	1.30
	計		54,386.65	262.74	100.00	49,175.65	239.88	1.11	1.10
助教授	教育活動	164	9,064.33	55.27	31.21	9,264.64	59.01	0.98	0.94
	研究活動		11,657.60	71.08	40.14	7,959.68	50.70	1.46	1.40
	社会貢献		2,908.88	17.74	10.02	4,349.31	27.70	0.67	0.64
	大学運営		3,387.00	20.65	11.66	3,064.00	19.52	1.11	1.06
	診療活動		2,022.64	12.33	6.96	1,812.06	11.54	1.12	1.07
	計		29,040.45	177.08	100.00	26,449.69	168.47	1.10	1.05
講師	教育活動	42	652.39	15.53	10.13	1,262.25	28.05	0.52	0.55
	研究活動		2,366.97	56.36	36.76	2,839.20	63.09	0.83	0.89
	社会貢献		549.95	13.09	8.54	627.99	13.96	0.88	0.94
	大学運営		485.00	11.55	7.53	648.00	14.40	0.75	0.80
	診療活動		2,384.43	56.77	37.03	2,115.74	47.02	1.13	1.21
	計		6,438.74	153.30	100.00	7,493.18	166.52	0.86	0.92
助手	教育活動	125	2,069.73	16.56	13.53	2,042.63	15.24	1.01	1.09
	研究活動		4,430.56	35.44	28.95	4,277.02	31.92	1.04	1.11
	社会貢献		1,302.15	10.42	8.51	2,023.76	15.10	0.64	0.69
	大学運営		923.00	7.38	6.03	937.00	6.99	0.99	1.06
	診療活動		6,576.55	52.61	42.98	7,535.89	56.24	0.87	0.94
	計		15,301.99	122.42	100.00	16,816.30	125.50	0.91	0.98

表 5-5 素点に基づく点数化の部局別集計結果

部局	活動区分	素点に基づく点数化						平成17年／平成16年	
		提出者数	平成17 合計点	平成17 平均点	構成 比率	平成16 合計点	平成16 平均点	合計 点	平均 点
人文学部	教育活動	66	5,733.16	86.87	53.92	3,706.25	68.63	1.55	1.27
	研究活動		2,055.61	31.15	19.33	2,696.45	49.96	0.76	0.62
	社会貢献		802.55	12.16	7.55	677.75	12.55	1.18	0.97
	大学運営		2,042.00	30.94	19.20	1,480.00	27.41	1.38	1.13
	計		<b>10,633.32</b>	<b>161.11</b>	100.00	<b>8,560.45</b>	<b>158.53</b>	<b>1.24</b>	<b>1.02</b>
教育学部	教育活動	74	6,127.40	82.80	44.23	4,968.86	67.15	1.23	1.23
	研究活動		3,782.34	51.11	27.30	1,981.19	26.77	1.91	1.91
	社会貢献		1,884.25	25.46	13.60	1,162.24	15.71	1.62	1.62
	大学運営		2,061.00	27.85	14.88	2,369.00	32.01	0.87	0.87
	計		<b>13,854.99</b>	<b>187.23</b>	100.00	<b>10,481.29</b>	<b>141.64</b>	<b>1.32</b>	<b>1.32</b>
理学部	教育活動	71	5,069.87	71.41	40.73	5,191.18	73.12	0.98	0.98
	研究活動		4,312.83	60.74	34.64	3,477.31	48.98	1.24	1.24
	社会貢献		734.98	10.35	5.90	1,289.39	18.16	0.57	0.57
	大学運営		2,331.00	32.83	18.72	1,792.00	25.24	1.30	1.30
	計		<b>12,448.68</b>	<b>175.33</b>	100.00	<b>11,749.87</b>	<b>165.49</b>	<b>1.06</b>	<b>1.06</b>
医学部	教育活動	227	4,955.79	21.83	11.46	6,154.63	25.97	0.81	0.84
	研究活動		17,184.87	75.70	39.72	15,866.64	66.95	1.08	1.13
	社会貢献		3,776.15	16.64	8.73	4,639.45	19.58	0.81	0.85
	大学運営		5,258.00	23.16	12.15	4,420.00	18.65	1.19	1.24
	診療活動		12,086.25	53.24	27.94	12,390.76	52.28	0.98	1.02
	計		<b>43,261.06</b>	<b>190.58</b>	100.00	<b>43,471.48</b>	<b>183.42</b>	<b>1.00</b>	<b>1.04</b>
農学部	教育活動	62	6,035.70	97.35	37.48	8,609.31	130.44	0.70	0.75
	研究活動		5,529.30	89.18	34.34	3,481.59	52.75	1.59	1.69
	社会貢献		2,435.15	39.28	15.12	2,783.28	42.17	0.87	0.93
	大学運営		2,103.00	33.92	13.06	2,382.00	36.09	0.88	0.94
	計		<b>16,103.15</b>	<b>259.73</b>	100.00	<b>17,256.18</b>	<b>261.46</b>	<b>0.93</b>	<b>0.99</b>
黒潮圏研究科	教育活動	16	930.63	58.16	20.28	1,243.70	77.73	0.75	0.75
	研究活動		2,582.44	161.40	56.27	1,021.08	63.82	2.53	2.53
	社会貢献		508.10	31.76	11.07	600.05	37.50	0.85	0.85
	大学運営		568.00	35.50	12.38	593.00	37.06	0.96	0.96
	計		<b>4,589.17</b>	<b>286.82</b>	100.00	<b>3,457.83</b>	<b>216.11</b>	<b>1.33</b>	<b>1.33</b>
全施設	教育活動	25	1,101.84	44.07	24.79	831.93	33.28	1.32	1.32
	研究活動		1,622.35	64.89	36.49	1,274.12	50.97	1.27	1.27
	社会貢献		640.30	25.61	14.40	1,956.08	78.24	0.33	0.33
	大学運営		944.00	37.76	21.24	1,038.00	41.52	0.91	0.91
	診療活動		136.92	5.48	3.08	14.88	0.60	9.20	9.13
	計		<b>4,445.41</b>	<b>177.82</b>	100.00	<b>5,115.00</b>	<b>204.60</b>	<b>0.87</b>	<b>0.87</b>

## 第6章 「自己評価点」と「素点に基づく点数化」の関係

個々の教員の「自己評価点」は、自己が定めた目的に対する主観的な達成度評価である。目標設定が低い場合には高い自己評価点になり、逆に高い場合には低い自己評価点となる。そこで、昨年度は「自己評価の厳しさ」を表す指標として『自己評価指数』を設定した。自己評価指数＝素点に基づく点数化／自己評価点で計算される。しかし、「素点に基づく点数化」と比して「自己評価点」の教員間変動幅が小さく（平均点±標準偏差は、自己評価点：361.0±63.3、素点に基づく点数化：197.2±158.7）、自己評価指数はほぼ「素点に基づく点数化」を反映すると考えられた。

「自己評価点」と「素点に基づく点数化」の相関を調べたところ、弱いながら正の相関がみられた（図6-1）。相関係数は0.194（n=520）、回帰直線式は「素点に基づく点数化」=0.486×「自己評価点」+21.1であった。各部局の相関係数もほぼ同じであった（data not shown）。「自己評価の厳しさ」を表す指標として、この回帰直線式を参考にしていきたい。

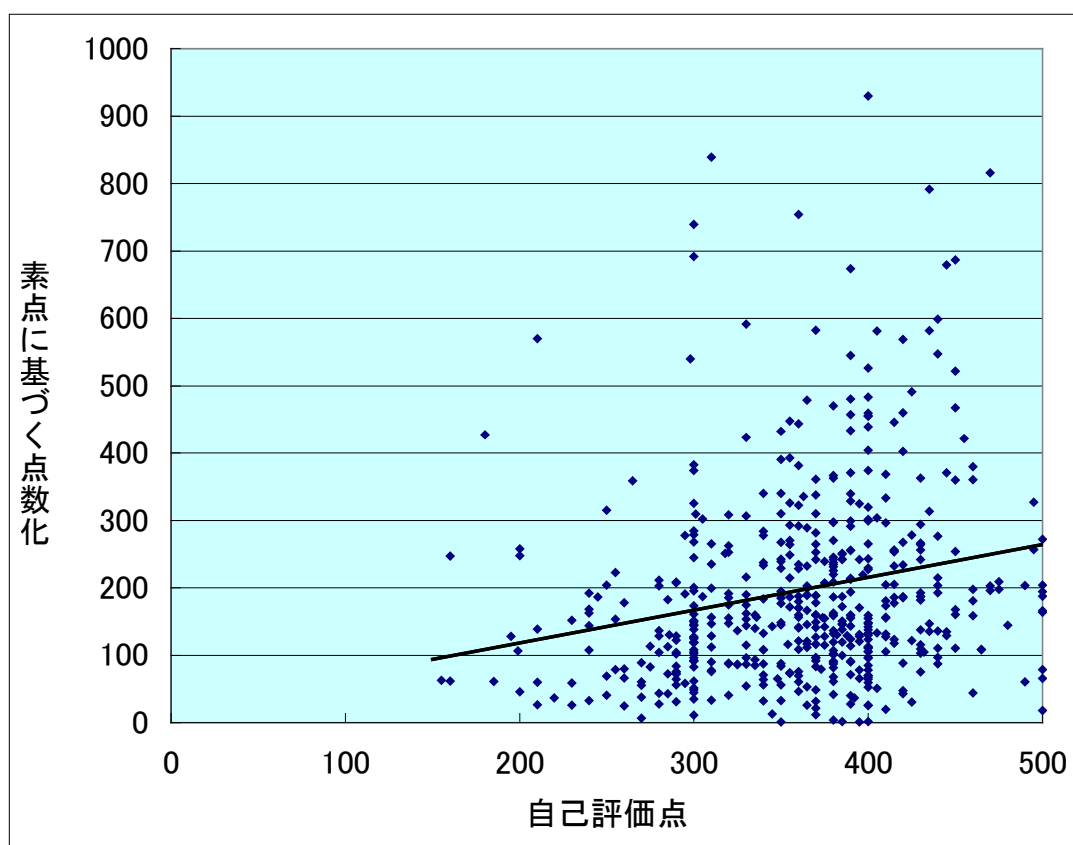


図6-1 「自己評価点」と「素点に基づく点数化」の分布

昨年度の試行では、自己評価点に関して評価本部による妥当性の検証を試みたが（『平成16年度に試行した「教員の総合的活動自己評価」に関する報告書』pp 13-15）、主観的評価（自己評価報告書）の観点と客観的評価（添付資料と総括表）の観点がずれており、自己評価点（主観的評価）を検証することは非常に困難であった。例えば、自己評価報告書の中の自己評価と、該当する総括表の項目に対する自己評価の評点（昨年度は総括表の中項目に自分で評点を記入した）が異なる人が多数いた。本人でさえ戸惑うのであるから、第三者が、観点の異なる客観的データに基づいて達成度を検証することは無理で、検証後評価点は自己評価点とほぼ同じ値とならざるをえなかった。このため、今年度は評価本部による妥当性の検証を実施しなかった。

「自己評価点」をマスで論じることあまり意味がない。このことは、自己評価報告書や自己評価点を軽視してよいことを意味しない。第1章の目的の項でも記したが、自己評価は、教員一人ひとりが高知大学の存在意義を見つめ直して、真摯に自分の置かれている立場を振り返って設定した目的を実現していくための方策であり、理想とするところは高い。自己評価報告書と自己評価点は、目的の設定も含めて教員各自にとって最も意義深いものである。

## **第7章 「教員の総合的活動自己評価」の活用**

### **7-1節 各教員へのフィードバック**

平成18年8月、各教員に、自分の平成16年度と平成17年度の自己評価点、素点に基づく点数、素点に基づく点数の全学、所属部局、所属部局同一職階の平均点を通知した。各教員が自分の点を平均点と比較することにより、さらに経年的変化をみることにより、各自の活動特性や活動量の部局や全学における位置づけを知り、自己改革を促す判断材料とすることを期待している。

### **7-2節 「教員の総合的活動自己評価」に関するアンケートから**

平成18年8月～9月にかけて、自己評価システムをより良いものに進化させるために、「教員の総合的活動自己評価」に関するアンケートを実施した。その問1で、活用状況について問うたが、その結果を表7-1に示す。この問いに対する回答は53名から寄せられた。そのうち、31名（58.5%）が活用していると回答した。

表 7-1 「教員の総合的活動自己評価」の活用状況

学 部	活用の状況 *			総計
	○	△	×	
人文学部			2	2
教育学部	2	1	2	5
理学部	6		3	9
医学部	9	2	8	19
農学部	10		4	14
黒潮圏研究科				0
全共施設	4			4
総計	31	3	19	53

\* 活用の状況

○＝活用している

△＝どちらとも言えない

×＝活用していない

活用している人の意見としては、以下のようなものがあった。

- 1) 教育活動や研究活動の見直し。研究については、点数化されるということで一定の刺激になっている。教育については、学生がよりわかりやすい授業にしていくための工夫をするようになってきた。
- 2) 自分の活動を平均値と比べて、評価を参考に自己目標・自己課題を考えている。
- 3) 前年度の自分の活動の総括と反省の材料として活用しようと思う。
- 4) 計画を立てることによって、今まで漠然と考えていた年度活動方針をより具体的に描くことが出来き、それに基づいて次年度の計画を実際的なものにすることが出来る。
- 5) 日頃の業務の中では、その時点での活動や業務に集中するので、こうした機会は、貴重であると感じている。また、システムの客観的評価により、自分本位な評価にならず、気持ちと意欲を新たにもつことができる。
- 6) 活動内容の比重が客観的に理解できたことから、今後の活動の重点項目を自分なりに理解することが出来た。今後は、データが蓄積される度に活動内容に改善が認められるかどうかとも評価の対象としてはいかがかと思う。
- 7) 活動量の不十分な点について検討し、原因を明確にして来期につなげる努力をしようと思っている。また、活動できていない分野の開拓を考えることも必要である。

## 第8章 「素点に基づく点数化」からみた活動状況

### 8-1節 教育活動

教育活動は、入試関連、講義、学位審査・論文指導、その他の4つの中項目から成る。昨年度定めた各項目への配点割合は、入試関連（10.5%）、講義（51.0%）、学位審査・論文指導（33.1%）、その他（5.4%）であった。平成17年度と平成16年度の各中項目の点数を表8-1に示す。

表8-1 平成17年度と平成16年度の教育活動

中項目	平成17年度	平成16年度	平成17/ 平成16
入試関連	7,187.6	3,219.6	2.23
講義	13,453.2	15,646.9	0.86
学位審査・論文指導	6,758.5	10,177.5	0.66
その他	2,554.9	1,663.2	1.54
全体	29,954.2	30,707.2	0.97

#### 8-1-1項 入試関連

表8-1に示すように、全学の入試関連点数は、昨年度に比べて大きく増加した(2.23倍)。各部局の入試関連活動状況を表8-2に示す。各部局とも問題出題、採点、面接の項目で大幅に増加している。これは活動量自体の増加というよりも、各教員が入力を積極的に行った結果と思われる。

表8-2 各部局の入試関連活動状況

入試関連 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
入試総括	205.0	項目なし	375.0	項目なし	205.0	項目なし	85.0	項目なし
問題出題	220.0	145.0	650.0	230.0	645.0	285.0	270.0	165.0
採点	154.0	105.0	462.0	168.0	357.0	199.5	119.0	101.5
面接	105.0	54.6	127.4	56.0	196.0	72.8	378.0	92.4
試験分析, 企画	45.0	51.0	96.0	129.0	39.0	105.0	21.0	45.0
受験生獲得対応	96.0	42.0	110.0	64.0	38.0	60.0	44.0	58.0
その他	項目なし	12.0	項目なし	22.0	項目なし	8.0	項目なし	66.0
計	825.0	409.6	1,234.6	669.0	1,480.0	730.3	917.0	527.9

入試関連 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
入試総括	135.0	項目なし	10.0	項目なし	90.0	項目なし	1,105.0	項目なし
問題出題	595.0	225.0	145.0	45.0	145.0	45.0	2,670.0	1,140.0
採点	374.5	164.5	38.5	35.0	105.0	31.5	1,610.0	805.0
面接	219.8	70.0	15.4	15.4	14.0	8.4	1,055.6	369.6
試験分析, 企画	15.0	21.0	0.0	24.0	45.0	78.0	261.0	453.0
受験生獲得対応	146.0	70.0	4.0	20.0	48.0	14.0	486.0	328.0
その他	項目なし	12.0	項目なし	0.0	項目なし	4.0	項目なし	124.0
計	1,485.3	562.5	212.9	139.4	447.0	180.9	7,187.6	3,219.6

### 8-1-2項 講義

各部局の講義活動状況を表 8-3 に示す。医学部と農学部で大きく減少している。教育システムの変更等の原因が考えられる。医学部では PBL を主とする KMS コアカリキュラムが始まった。

表 8-3 各部局の講義活動状況

講義 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
共通教育	936.5	565.6	296.4	339.3	254.2	284.9	175.7	308.6
学部・大学院	2,483.9	1,229.9	2,407.0	2,181.0	1,492.6	1,323.6	2,435.9	3,565.5
他学部・ 他大学院	6.8	146.0	23.1	275.0	1.8	93.3	28.2	117.6
計	3,427.1	1,942.4	2,726.5	2,795.3	1,748.6	1,701.8	2,639.8	3,991.7

講義 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
共通教育	164.1	334.1	58.9	55.1	112.8	86.9	1,998.5	1,975.4
学部・大学院	1,972.4	4,017.0	329.9	282.3	172.9	142.9	11,294.6	12,742.1
他学部・ 他大学院	51.6	110.7	36.9	96.5	11.9	90.5	160.2	929.6
計	2,188.1	4,461.8	425.6	433.9	297.5	320.3	13,453.2	15,647.0



### 8-1-3 学位審査・論文指導

学位審査等は、昨年度に比べて大幅に減少した（0.66倍）。修士論文審査の主査（括弧内は昨年度実績）は130(145)件、博士論文審査の主査は47(53)件とそれほど減少していないことから、在学生数の減少が影響しているものと思われる。各部局の学位審査・論文指導活動状況を表8-4に示す。

表8-4 各部局の学位審査・論文指導活動状況

学位審査 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
修士主査	12.0	16.0	34.0	60.0	52.0	64.0	62.0	18.0
修士副査	14.0	15.0	38.0	40.0	90.0	100.0	46.0	19.0
博士主査	0.0	0.0	0.0	3.0	18.0	12.0	72.0	96.0
博士副査	1.5	0.0	1.5	0.0	16.5	13.5	54.0	85.5
卒論指導	1,025.0	990.0	790.0	990.0	940.0	1,230.0	100.0	185.0
修論指導	84.0	112.0	112.0	189.0	294.0	784.0	329.0	210.0
博論指導	0.0	8.0	0.0	0.0	64.0	304.0	232.0	624.0
計	1,136.5	1,141.0	975.5	1,282.0	1,474.5	2,507.5	895.0	1,237.5

学位審査 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
修士主査	76.0	114.0	14.0	8.0	10.0	10.0	260.0	290.0
修士副査	76.0	89.0	5.0	15.0	9.0	15.0	278.0	293.0
博士主査	48.0	36.0	0.0	6.0	3.0	6.0	141.0	159.0
博士副査	93.0	97.5	3.0	10.5	6.0	1.5	175.5	208.5
卒論指導	840.0	1,125.0	165.0	335.0	95.0	100.0	3,955.0	4,955.0
修論指導	392.0	980.0	70.0	168.0	84.0	133.0	1,365.0	2,576.0
博論指導	232.0	696.0	0.0	48.0	56.0	16.0	584.0	1,696.0
計	1,757.0	3,137.5	257.0	590.5	263.0	281.5	6,758.5	10,177.5

### 8-1-4 項 その他の教育活動

各部局のその他の教育活動の状況を表 8-5 に示す。全体の点数が低く、評価項目の入れ替えが多かったため、今回はデータの提示にとどめる。FD 企画はミスによりデータの抽出段階で漏れたようである。

表 8-5 各部局のその他の教育活動の状況

その他 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
FD 企画	項目なし	7.5	項目なし	9.0	項目なし	6.0	項目なし	9.0
FD 参加	5.5	3.8	5.0	4.0	8.8	4.5	5.9	4.6
卒業生の 就職企業 訪問	22.0	項目なし	24.0	項目なし	37.0	項目なし	3.0	項目なし
企業来訪 者対応	11.0	項目なし	62.0	項目なし	150.0	項目なし	128.0	項目なし
就職相談	182.0	169.0	206.0	178.0	159.0	204.0	299.0	236.0
留学支援	62.0	19.0	35.0	14.0	0.0	25.0	16.0	104.0
クラブ顧問	62.0	12.0	273.0	18.0	12.0	11.0	52.0	35.0
その他	項目なし	2.0	項目なし	0.4	項目なし	1.2	項目なし	9.4
計	344.5	213.3	605.0	223.4	366.8	251.7	503.9	398.0

その他 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
FD 企画	項目なし	15.0	項目なし	0.0	項目なし	9.0	項目なし	55.5
FD 参加	8.3	5.4	0.1	1.0	1.3	1.2	34.9	24.5
卒業生就 職企業訪 問	80.0	項目なし	0.0	項目なし	2.0	項目なし	168.0	項目なし
企業来訪 者対応	233.0	項目なし	18.0	項目なし	7.0	項目なし	609.0	項目なし
就職相談	241.0	377.0	13.0	75.0	78.0	28.0	1,178.0	1,267.0
留学支援	10.0	31.0	2.0	2.0	2.0	6.0	127.0	201.0
クラブ顧問	33.0	9.0	2.0	2.0	4.0	5.0	438.0	92.0
その他	項目なし	10.2	項目なし	0.0	項目なし	0.0	項目なし	23.2
計	605.3	447.6	35.1	80.0	94.3	49.2	2,554.9	1,663.2

## 8-2節 研究活動

研究活動は、著書・論文発表、学会活動、外部資金獲得の3つの中項目から成る。昨年度定めた各項目への配点割合は、著書・論文発表（69%）、学会活動・特許出願（13%）、外部資金獲得（18%）であった。平成17年度と平成16年度の各中項目の点数を表8-6に示す。全ての中項目において活動量が増加した。とくに、学会活動・特許出願は2倍以上の増加があり、外部資金獲得も2割上昇したことから、現在研究活動が活発に進行中であることを示唆する。数年後の論文発表に繋がることが期待される。

表8-6 平成17年度と平成16年度の研究活動

中項目	平成17年度	平成16年度	平成17/ 平成16
著書・論文発表	22,291.5	20,709.0	1.08
学会活動・特許出願	8,326.6	3,771.6	2.21
外部資金獲得	6,451.6	5,326.4	1.21
全体	37,069.7	29,807.0	1.24

### 8-2-1項 著書・論文発表

各部局の著書・論文発表活動状況を表8-7に示す。昨年度と比べて、全学的に欧文の論文数が伸びていた。

表8-7 各部局の著書・論文発表活動状況

著書・論文 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
著書欧文	600.0	60.0	870.0	30.0	195.0	60.0	1,335.0	615.0
著書邦文	48.0	1,080.0	72.0	324.0	0.0	90.0	480.0	846.0
総説欧文	0.0	0.0	30.0	60.0	15.0	45.0	270.0	240.0
総説邦文	12.0	168.0	96.0	24.0	30.0	30.0	780.0	954.0
原著論文欧文	180.0	1,200.0	630.0	630.0	1,965.0	1,695.0	6,255.0	6,840.0
原著論文邦文	480.0	780.0	684.0	384.0	114.0	168.0	708.0	1,008.0
症例報告欧文	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	432.0	300.0
症例報告邦文	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	1.5	150.0	151.5
その他	96.0	129.0	318.0	114.0	61.5	55.5	154.5	118.5
計	1,416.0	2,520.0	2,700.0	1,566.0	2,380.5	2,151.0	10,564.5	11,073.0

著書・論文 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
著書欧文	390.0	150.0	165.0	15.0	75.0	30.0	3,630.0	960.0
著書邦文	0.0	90.0	12.0	18.0	0.0	78.0	612.0	1,626.0
総説欧文	30.0	15.0	60.0	0.0	0.0	0.0	405.0	360.0
総説邦文	102.0	30.0	120.0	24.0	36.0	42.0	1,176.0	1,272.0
原著論文欧文	2,145.0	1,440.0	510.0	375.0	810.0	525.0	12,495.0	12,705.0
原著論文邦文	288.0	252.0	84.0	84.0	144.0	108.0	2,502.0	2,784.0
症例報告欧文	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	432.0	306.0
症例報告邦文	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	150.0	156.0
その他	171.0	55.5	61.5	37.5	27.0	30.0	889.5	540.0
計	3,126.0	2,032.5	1,012.5	553.5	1,092.0	813.0	22,291.5	20,709.0

### 8-2-2 項 学会活動・特許出願

研究活動の中でも、学会活動の活動量は昨年度と比較して2倍強に増加した（表 8-6）。各部局における学会活動・特許出願状況を表 8-8 に示す。論文査読と学術誌編集の評価項目が追加されたことの寄与が大きいですが、実際の学会活動をみても各部局で顕著に増加していた。

表 8-8 各部局における学会活動・特許出願状況

学会活動 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
国内参加	50.80	7.6	52.0	17.6	77.6	55.2	342.0	350.4
国内発表	11.40	23.4	42.0	25.8	152.4	43.2	764.4	285.0
国内司会	84.00	4.8	130.4	8.8	312.8	25.6	674.4	159.2
国際参加	2.70	0.0	3.6	0.0	14.4	28.8	26.1	159.3
国際発表	7.50	6.0	28.5	22.5	130.5	33.0	331.5	196.5
国際司会	17.50	38.5	7.0	7.0	119.0	31.5	14.0	45.5
受賞	75.00	0.0	100.0	100.0	75.0	50.0	600.0	600.0
特許出願	0.00	0.0	10.0	5.0	35.0	85.0	125.0	45.0
特許取得	項目なし	0.0	項目なし	0.0	項目なし	30.0	項目なし	60.0
研究セミナー	12.00	13.2	20.4	6.0	13.2	26.4	116.4	116.4
論文査読	26.40	項目なし	114.0	項目なし	169.2	項目なし	333.6	項目なし
学術誌編集	110.00	項目なし	100.0	項目なし	250.0	項目なし	600.0	項目なし
その他	項目なし	8.0	項目なし	45.0	項目なし	4.0	項目なし	35.0
計	397.30	101.5	607.9	237.7	1,349.1	412.7	3,927.4	2,052.3

学会活動 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
国内参加	66.0	54.4	15.2	7.6	16.0	13.2	619.6	506.0
国内発表	153.0	55.2	33.0	20.4	31.2	13.8	1,187.4	466.8
国内司会	241.6	43.2	49.6	6.4	22.4	7.2	1,515.2	255.2
国際参加	5.4	10.8	0.9	0.0	4.5	11.7	57.6	210.6
国際発表	81.0	42.0	28.5	9.0	16.5	7.5	624.0	316.5
国際司会	24.5	10.5	0.0	3.5	0.0	0.0	182.0	136.5
受賞	175.0	100.0	25.0	25.0	75.0	25.0	1,125.0	900.0
特許出願	135.0	75.0	15.0	110.0	5.0	15.0	325.0	335.0
特許取得	項目なし	180.0	項目なし	0.0	項目なし	0.0	項目なし	270.0
研究セミナー	30.0	24.0	3.6	27.6	8.4	8.4	204.0	222.0
論文査読	226.8	項目なし	110.4	項目なし	26.4	項目なし	1,006.8	項目なし
学術誌編集	250.0	項目なし	130.0	項目なし	40.0	項目なし	1,480.0	項目なし
その他	項目なし	28.0	項目なし	7.0	項目なし	26.0	項目なし	153.0
計	1,388.3	623.1	411.2	216.5	245.4	127.8	8,326.6	3,771.6

### 8-2-3 項 外部資金獲得

各部局における外部資金獲得状況を表 8-9 に示す。昨年度と比較して、各学部とも科学研究費補助金の応募が顕著に増加した。採択数も大きく伸びた。獲得金額も人文学部、教育学部、医学部、農学部、黒潮圏研究科で増加した。とくに、黒潮圏研究科の科研費と受託研究の獲得は特記すべきものがある。

表 8-9 各部局における外部資金獲得状況

外部資金獲得 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
科研金額	170.5	42.5	348.9	109.4	264.5	407.9	1,476.1	1,389.4
科研採択数	6.4	2.8	8.4	8.4	12.4	12.0	48.4	34.4
科研応募数	10.0	3.3	13.8	9.3	30.0	17.0	78.8	45.3
共同研究	2.4	4.8	18.3	14.0	76.6	52.3	69.0	159.6
受託研究・ 奨学寄附金	0.0	3.9	14.3	14.0	55.7	93.4	551.3	824.8
学長、学部長裁 量経費	53.0	16.8	41.3	20.9	79.6	132.3	135.4	107.3
その他	0.0	9.0	29.6	1.7	64.4	199.3	334.0	180.5
計	242.3	83.1	474.4	177.5	583.2	914.1	2,693.0	2,741.3

外部資金獲得 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
科研金額	352.0	283.7	450.3	135.0	179.9	164.0	3,242.0	2,531.8
科研採択数	16.0	7.6	8.0	3.6	3.2	2.4	102.8	71.2
科研応募数	31.8	16.5	9.5	4.5	6.5	4.0	180.3	99.8
共同研究	34.0	54.4	6.0	2.3	8.0	14.3	214.3	301.8
受託研究・ 奨学寄附金	427.9	291.6	639.3	65.0	55.3	60.1	1,743.8	1,352.6
学長、学部長裁 量経費	120.9	135.2	37.4	37.7	32.1	69.3	499.8	519.5
その他	32.5	37.1	8.3	3.0	0.0	19.2	468.8	449.8
計	1,015.0	826.0	1,158.7	251.1	285.0	333.3	6,451.6	5,326.4

### 8-3節 社会貢献活動

社会貢献活動は、国内社会貢献、国際交流の2つの中項目から成る。昨年度定めた各項目への配点割合は、国内社会貢献（56%）、国際交流（44%）であった。平成17年度と平成16年度の各中項目の点数を表8-10に示す。昨年度と比較して、国内社会貢献は横ばいであったが、国際交流活動の落ち込みが激しかった。

表8-10 平成17年度と平成16年度の研究活動

中項目	平成17年度	平成16年度	平成17/ 平成16
国内社会貢献	7,183.2	7,384.0	0.97
国際交流	3,598.4	5,724.2	0.63
全体	10,781.6	13,108.2	0.82

#### 8-3-1項 国内社会貢献活動

各部局における国内社会貢献活動状況を表8-11に示す。昨年度と比較して全体としてはほぼ横ばいであった。学外教育活動が増加した分、産学官連携の活動量が低下した。研究には波があるので次年度に期待したい。時代に合わせて、起業活動を評価項目に加えた。今年度は1件のみあった。

表8-11 各部局における国内社会貢献活動状況

国内社会貢献 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
学外教育活動	404.10	183.2	1,026.1	385.1	154.8	155.4	1,235.9	600.8
講演、研修	48.30	40.6	195.3	177.8	39.2	41.3	224.7	293.3
審議会活動	36.40	80.5	69.3	72.1	50.4	39.2	64.4	115.5
産学官連携	37.60	37.6	75.2	75.2	51.7	164.5	159.8	239.7
ボランティア	9.00	11.3	17.3	37.5	0.8	1.5	17.3	47.3
メディア啓発	9.75	7.5	13.5	30.8	4.5	6.8	37.5	51.8
鑑定	0.00	5.0	0.0	5.0	0.0	75.0	1,055.0	545.0
保険医療従事者教育活動	項目なし	0.0	項目なし	28.5	項目なし	0.0	項目なし	144.8
審査員、審判	0.00	4.5	39.0	63.8	0.0	34.5	0.0	91.5
同窓会活動	1.20	7.6	0.40	7.6	0.40	4.0	2.40	9.2
起業活動	0.00	項目なし	0.0	項目なし	0.0	項目なし	50.0	項目なし
その他	項目なし	1.2	項目なし	3.8	項目なし	3.2	項目なし	358.2
計	546.35	379.0	1,436.1	887.1	301.8	525.4	2,847.0	2,497.0

国内社会貢献 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
学外教育活動	350.0	215.3	28.6	47.4	396.0	66.1	3,595.6	1,650.3
講演、研修	88.2	84.7	28.7	34.3	30.1	26.6	654.5	698.6
審議会活動	92.4	128.8	28.7	44.8	29.4	53.9	371.0	534.8
産学官連携	883.6	634.5	9.4	79.9	14.1	1,400.6	1,231.4	2,632.0
ボランティア	17.3	32.3	4.5	8.3	3.0	3.8	69.0	141.8
メディア啓発	22.5	41.3	3.0	12.8	16.5	12.8	107.3	163.5
鑑定	0.0	60.0	0.0	25.0	0.0	0.0	1,055.0	715.0
保険医療従事 者教育活動	項目なし	0.0	項目なし	2.3	項目なし	0.8	項目なし	176.3
審査員、審判	0.0	30.0	0.0	12.0	0.0	12.8	39.0	249.0
同窓会活動	4.80	10.8	0.00	0.0	1.20	2.4	10.40	41.6
起業活動	0.0	項目なし	0.0	項目なし	0.0	項目なし	50.0	項目なし
その他	項目なし	8.3	項目なし	0.0	項目なし	3.5	項目なし	378.2
計	1,458.8	1,245.9	102.9	266.7	490.3	1,583.1	7,183.2	7,384.0

### 8-3-2 国際交流

各部局における国際交流活動状況を表8-12に示す。昨年度と比べて、全般的に活動量が低下している。

表8-12 各部局における国際交流活動状況

国際交流 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
国際セミナー シンポ	36.00	54.0	108.0	63.0	45.0	207.0	216.0	468.0
大学／学術組 織との交流	36.00	42.0	138.0	60.0	114.0	192.0	132.0	462.0
在外研究	99.00	45.0	36.0	9.0	108.0	81.0	72.0	117.0
姉妹校交流	37.20	55.8	37.2	18.6	37.2	62.0	161.2	248.0
留学生／研究 者の受け入れ	48.00	90.0	120.0	78.0	96.0	174.0	294.0	618.0
UN, JICA, NGO	0.00	6.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	66.0
技術指導	0.00	0.0	9.0	27.0	9.0	36.0	9.0	135.0
国際委員活動	0.00	項目なし	0.00	項目なし	18.00	項目なし	45.00	項目なし
その他	項目なし	6.0	項目なし	19.5	項目なし	12.0	項目なし	28.5
計	256.20	298.8	448.2	275.1	433.2	764.0	929.2	2,142.5



国際交流 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
国際セミナー シンポ	225.0	108.0	99.0	90.0	18.0	81.0	747.0	1,071.0
大学／学術組 織との交流	306.0	426.0	60.0	54.0	30.0	84.0	816.0	1,320.0
在外研究	63.0	72.0	162.0	36.0	0.0	9.0	540.0	369.0
姉妹校交流	136.4	136.4	6.2	12.4	0.0	31.0	415.4	564.2
留学生／研究 者の受け入れ	210.0	318.0	42.0	66.0	102.0	114.0	912.0	1,458.0
UN, JICA, NGO	0.0	96.0	0.0	12.0	0.0	18.0	6.0	198.0
技術指導	36.0	351.0	18.0	63.0	0.0	27.0	81.0	639.0
国際委員活動	0.00	項目なし	18.00	項目なし	0.00	項目なし	81.00	項目なし
その他	項目なし	30.0	項目なし	0.0	項目なし	9.0	項目なし	105.0
計	976.4	1,537.4	405.2	333.4	150.0	373.0	3,598.4	5,724.2

#### 8-4節 大学運営活動

各部局における大学運営活動状況を表8-13に示す。大学の運営体制の改革により、附属施設長と全学委員長の数が増員されたことが視える。

表8-13 各部局における大学運営活動状況

大学運営 小項目	人文学部		教育学部		理学部		医学部	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
学部長	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	0.0	70.0
附属施設長	315.0	35.0	455.0	245.0	420.0	140.0	315.0	175.0
委員長-全学	180.0	100.0	160.0	20.0	300.0	180.0	220.0	80.0
委員長-学部	285.0	240.0	300.0	540.0	285.0	210.0	1,095.0	630.0
委員-全学	720.0	584.0	576.0	776.0	824.0	728.0	856.0	1,088.0
委員-学部	472.0	428.0	500.0	676.0	432.0	416.0	2,772.0	2,224.0
その他	項目なし	27.0	項目なし	42.0	項目なし	48.0	項目なし	153.0
計	2,042.0	1,484.0	2,061.0	2,369.0	2,331.0	1,792.0	5,258.0	4,420.0

大学運営 小項目	農学部		黒潮圏		全共施設		全学	
	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16	平成17	平成16
学部長	0.0	70.0	70.0	70.0	0.0	0.0	280.0	420.0
附属施設長	140.0	140.0	0.0	0.0	35.0	140.0	1,680.0	875.0
委員長-全学	240.0	180.0	20.0	0.0	180.0	100.0	1,300.0	660.0
委員長-学部	315.0	435.0	90.0	105.0	105.0	30.0	2,475.0	2,190.0
委員-全学	760.0	880.0	296.0	256.0	448.0	480.0	4,480.0	4,792.0
委員-学部	648.0	596.0	92.0	156.0	176.0	140.0	5,092.0	4,636.0
その他	項目なし	81.0	項目なし	6.0	項目なし	78.0	項目なし	435.0
計	2,103.0	2,382.0	568.0	593.0	944.0	968.0	15,307.0	14,008.0

## 8-5節 診療活動

診療活動状況を表 8-14 に示す。昨年度と比べて、ほぼ同様の活動量である。

表 8-14 診療活動状況

小項目	平成17	平成16
診療時間	4,405.6	5,787.0
診療患者数	1,820.3	2,733.0
難治症例	34.4	69.0
紹介患者数	243.8	153.0
特殊患者診療数	94.3	59.0
認定医, 専門医数	139.5	項目なし
指導症例数	項目なし	225.0
特殊検査	290.8	265.0
手術	2,451.0	項目なし
臨床治験	43.3	項目なし
臨床指導	46.2	項目なし
当直日数	992.3	1,036.0
時間外診療	1,613.3	1,881.0
臨床活動普及活動	項目なし	14.0
講演回数	30.0	44.0
臨床成果の執筆活動	8.0	36.0
地域病院への協力	2.4	37.0
医事紛争対応	7.0	25.0
第三者評価への協力	1.1	42.0
合計	12,223.1	12,406.0

## 第9章 評価システムの改善

### 9-1節 昨年度提示された改善事項

昨年度、以下の改善事項が挙げられた。

- (1) 部局レベルで画一的に分けるのではなく、各教員の申告により文系、理系を定めるシステムに改善する。
- (2) 学部等の個性を反映させるため、「素点による点数化」の評価項目を学部等の個性を反映するように改善する。
- (3) 「学生による授業評価」、「論文のインパクトファクター」等の『質』を加味した評価システムへと改善する。
- (4) 外国人教師等のために英語の実施要領等を作成する。
- (5) WEB入力が可能な自己評価に関するシステムを構築する。

このうち、(1)、(2)、(5)は実現した。(3)、(4)は改善課題として残された。とくに、『質』の問題は重要であるので、継続して議論を深めていきたい。

### 9-2節 「教員の総合的活動自己評価」に関するアンケートから

平成18年8月～9月にかけて、自己評価システムをより良いものに進化させるために、「教員の総合的活動自己評価」に関するアンケートを実施した。その問2で、評価システムの改善について問うたが、その結果を表9-1に示す。

改善希望の種類としては、①入力方法に関するもの、②初期データの入力を求めるもの、③入力時期の希望、④評価項目に関するもの、⑤制度自体に関するもの、⑥その他に分類される。

①入力方法に関するものは、入力の省力化と各教員による不均一性を解消するため、プルダウンメニューリストを希望するもの、文字数の制限の解除を希望するもの、エラー対応に関するものがあった。これらについては、次年度入力までに改善する予定である。

②初期データの入力を求めるものは、入力の省力化のために、既に大学当局が管理しているデータを予め初期データとして埋めておいてほしい、参照のため前年度の入力項目を残しておいてほしいというものである。前者は、大学のデータベースの整備中であり、今後の課題としたい。後者は次年度改善したい。

③入力時期の希望は、入力時期が年度末と重なるので非常に多忙であり、通年の随時入力を可能としてほしいというものである。当初、今年度からWeb入力を導入したことから随時入力が可能と考えていたが、評価項目の変更やデータベースシステムの未熟性のため

実現できていない。ソフトウェアを改善して、次年度の実現を目指す。さらに、この問題は、教員による入力如期日内に行われなかったことも関係しているため、教員各位の協力をお願いしたい。

④評価項目に関するものは、評価本部で個別に検討している。

⑤制度自体に関するものは、第1章の目的の部分をお読みいただき、ご理解いただきたい。

⑥その他は、オンラインヘルプの導入などがあった。今後の課題としたい。

表 9-1 自己評価システムへの改善希望（複数回答）

学 部	改善希望種別 *						総計
	①	②	③	④	⑤	⑥	
人文学部					2		2
教育学部	1	1		1			3
理学部	1	3	2	2	1	1	10
医学部	7	4	1	5	2	1	20
農学部	3	2	3	1	2	1	12
センター	1	1	1	1			4
総計	13	11	7	10	7	3	51

\* 改善希望種別

①=入力方法等について

②=初期データの入力について

③=入力時期について

④=評価項目について

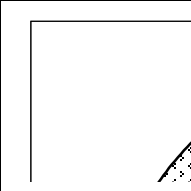
⑤=制度について

⑥=その他

## 第10章 おわりに

「教員の総合的活動自己評価」は、二年を経て、だいぶ教員に定着してきた感がある。しかし、目的が明確でないとの指摘があり、第1章に目的を記した。教員の活動には数値化できるものと数値化できないものがある。「素点に基づく点数化」が前者で、「自己評価報告書」が後者にあたる。数値化できるプロダクトを求める過程で、数値化できないものにも波及効果が生じる。逆に、数値化できないものに真剣に取り組むことにより、知らず識らずのうちに豊饒なプロダクトが得られる。その証拠に、本報告の分析において、「素点に基づく点数化」と「自己評価報告書」は弱いながらも正の相関を示している。たしかに、自己評価報告書の記入や活動状況資料の入力は労多くして、直接的な見返りはないが、効果を長い目で見ていただきたい。今後とも、教員各位のご理解とご協力をお願いする次第である。

「素点に基づく点数化」から判断すると、平成17年度の高知大学全活動量は、平成16



年度と比して約5%増加していた。もちろん、本評価システムで全ての活動を拾い上げているわけではないが、代表的なものは含まれており、活動量の指標としては妥当と考えても良いのではないだろうか。活動量が増加していることは、本学の教員が、法人化後、必死に頑張っていることの証といっても過言ではないであろう。しかし、この結果に満足することなく、スパイラルアップのために、伸びている活動分野はいっそう伸ばし、沈滞している分野は改善していくことが肝要である。

「教員の総合的活動の自己評価」は、全学の教員の一人ひとりの順位付けを意図したのではなく、あくまで各教員が自らの置かれた状況を客観的にレビューし、より良い状態へと進化していくための方策である。全教員が一丸となって、この自己評価システムをさらに良いものへと進化させ、本学を活力と個性に溢れる地域の大学へと発展させていかなければならない。